

カミノトピックス

引っ越しました！ 12月1日より変わります！

今回、『社会福祉法人 千歳いずみ学園 地域総合支援センターいずみの杜・春日』様を紹介いたします。こちらは、千歳市内各所にある作業所・事務所の一部の、「障がい者支援センター しんとみ」様、「障がい者支援センター しゅくばい」様、「サポートセンター エブリ」様、「地域生活支援センターいずみ寮」様、「就労推進室 やませみ」様の5事業所が、11月下旬に千歳市春日町3丁目5番1号(春日公園沿いの建物)に引っ越しました。

移転された事業所様を紹介いたします。

「障がい者支援センター しんとみ」様「障がい者支援センター しゅくばい」様の2事業所は統合し「障がい者支援センター キラリ」様と、名称も変更されました。こちらでは、利用者の方々が、「弁当箱の型抜き作業」「メロンゼリーのパック詰め」「正月用しめ飾りの制作販売」「さをり織りや刺繍などの手工芸」などの作業が行われています。

「サポートセンター エブリ」様では、介護給付事業、居宅での身体・家事、通院、外出の支援と、地域生活支援事業、個別やグループでの外出支援、日中一時支援でのフリースペースを活動の場として、グループ支援が行われています。

「共同生活介護・援助一体型事業所 いずみ寮」では、地域生活支援センターを起点に専任のスタッフが地域生活者への、生活支援・就労支援にあたられています。

「就労推進室 やませみ」様は、就労を目指す障がいがある方、就労支援をされている支援者の皆様のお悩み相談など、様々なお手伝いにあたられています。

長年にわたり、各事業所は千歳市内の各所にありましたが、12月1日より新しい場所で活動を始めます。 (談：SINKA・後藤)



オレンジ色で大変目立ちます



玄関には入っている事業所の名前が...

「科学」を楽しもう...

11月に市民文化センターで、平成24年度千歳市協働事業として『青少年のための科学の祭典千歳大会 2012』が開催されました。

当社も実行委員会様のご案内をいただき、初めて参加しました。千歳やその近郊の子供たちに科学に興味を持ってもらうことを目的とし毎年開催をしていることを聞き、「科学」というキーワードに大変戸惑い、何をお見せ出来るか考えました。

10月に参加した環境フェアでLEDでの節電呼びかけを致しました。その際に理化学機器や学校教育用の理科実験教材の開発提案を行っているメーカーのケニスより、LED電球は省エネと言われているが、どのくらい消費電力が少ないのかを確かめる実験器具を提供してもらいました。今回も同じく手回し発電機を提供していただき、どのくらいの力で発電するのかを子供たちに体験してもらいました。2種類用意をして1つは豆電球、もう1つは電球と蛍光灯での実験となりました。親子での参加が多く、お父さんお母さんが少ない力で発電するLEDの説明をする光景が非常に多かったと感じました。

他には、高校生が理科実験の体験コーナーを作っており、多くの方が見ていました。北海道科学活動ネットワークの方々が空気ポンプ、ポリ風船、糸を吹き出すストロー鉄砲等、子ども達がもの作りを体験するコーナーを作り長蛇の列となっていました。まだまだ興味深いコーナーが数多く有りましたが、10時~15時の開催時間で2,600名以上が来場しましたので、全体を見る事が出来なかったのがとても残念でした。その中で私が個人的に興味を持ったのが、千歳小の成田先生による千歳の昆虫紹介でした。樹脂標本と言う透明なプラスチックに入れて永久保存した昆虫をいろんな角度から観察でき虫が苦手な子供たちからも好評とのことでした。授業にも活用したり標本のアイテムが年々増えていくそうです。来年も是非貴重な1日を体験出来るよう参加したいと思います。 (談：Eyes・斉藤)



当社で用意した「手回し発電機」 子ども達は勢いよく手回しLEDと電球の違いを体感



セスナ機シミュレーション体験



樹脂標本のトンボ



キウス周堤墓千歳市埋蔵文化財センター

個人的に所属部署が変わり新しいスタートを切った10月初め、祖父母や親戚の住む岩手県一関市～宮城県気仙沼市周辺を旅してきました。前回の訪問は6年前 小学校入学の我が娘を見せるため。今回はその娘の成長報告と、震災のお見舞いに そして不謹慎かと迷いましたが 昨年3月の東日本大震災で甚大な被害を受けてしまった気仙沼市めぐり、自分の目と心に『何か』を焼き付けておきたいと思いました。

震災から1年半が経ちTVなどでの扱いも小さくなり、被災地から遠い所に住んでいる者には過去の出来事のようになってきた感じですが、実際 現地はまだまだ 被災地 のままでした。

震災発生当時、津波後の火災で街全体が真っ赤になっていた鹿折には、荒地の中に打ち上げられたままの巨大船。かつて街だったのに基礎だけを残して根こそぎ津波に流され 諸問題で建設も進まず雑草が伸び放題の地域。地盤沈下して満潮で浸水する地域は 道路だけ嵩上げ。街中の瓦礫は取り除かれたものの、処理が進まずに集められて山積み場所。津波の威力と大自然の恐ろしさ…強烈な現実には胸が締め付けられ、言葉を失いました。

そんな爪痕の生々しい気仙沼市でしたが、復興に力を注ぐ人々のパワーもたくさんありました。津波に耐えた1本の松が昇り竜のように見える『龍の松』の岩井崎や 鹿折の『復幸マルシェ』などでは復興Tシャツを掲げたり、映画祭など多数のイベントが開催され、随所に『復興ボランティア』の方々がいて、もっと元気な街に！と頑張っている姿が素敵でした。

市内をナビしてくれた知人の話では、色々な課題や困難が多く簡単には進まない事だらけだそうですが、元気と意欲のある人達が『ただ元通りにするのではなく 新たに創り出そう』『誰かにやってもらうのを待つのではなく 自分達で始めよう』と盛り上げ、少しずつ生まれ変わろうとしている との事。

今回この旅で見た事や聞いた事 そこで感じた事が、これからの自分に確実に『何か』を与えてくれたと実感しています。今後それを形にできるかどうかは、自分の努力次第…でしょうか。 (談：W.F・瀧石)



津波にも負けず昇っていく『龍の松』



気仙沼市内を南下 かつての住宅地から海が見えたのは衝撃的でした



3階まで津波にのまれた向洋高校 屋上に避難したため全員無事だったとの事 3階のバルコニーに松の木が引っかけたまま 学校の手前には廃棄物処理場が建設中



市場の辺りは復旧時期未定…



再び電車が通る見込みは立たず…



打ち上げられた巨大な漁船 保存か撤去か…



大空にたなびく『復興Tシャツ』 海の幸も戻りつつあるようです

11月27日於/サポ-トハ-クKapassにて、ハンドクターによる万年筆のメンテナンスサービス会を開催しました。当日は吹雪模様でしたが、長年ご愛用のもしくは長らく引き出し中であつた万年筆を持参いただき、ドクターによりもう一度使えるペンにしていいただきました。文字を「書く」ことより「打つ」事の多くなった現代。でも、人が最初にもらう手紙は親からの「名前」という手書きの手紙。まさに気持ちのこもった手紙です。時期をみてまた開催したいと思っておりますので、その際にご案内いたします。お預かり修理も賜りますので、Kapassまでご連絡ください。



節電に係わる休業のお願い

本格的な冬が到来し、暖房がなければ過ごせない季節となりました。

先日、夏に引き続き今冬の節電に対する政府方針により、7%以上の節電目標が設定されました。

当社も環境活動を進めておりますが、節電対策の一環として、今まで午前中のみ営業しておりました土曜日を、下記の期間は全休とさせていただきます。

昨今の諸事情と当社の取り組みをご理解いただけますようお願いいたします。

土曜日全休期間：

2012年12月8日～2013年2月9日

年末年始休業日は

2012年12月30日～2013年1月6日

2012年11月30日 VOL. 89

発行元：(株)カミノ

TEL：0123-23-4255 / FAX：0123-24-1381

e-mail：kamino@kamino.co.jp